



Faculty of Engineering
Tokushima University

沿岸域の環境保全・修復と津波防災に関する研究

【キーワード:閉鎖性海域, 南海トラフ地震津波, 環境学習, 防災学習】 教授 上月 康則



「此処より下に家を建てるな」という石碑の言葉を守った者は助かった(東日本大震災)



日本一水質悪化の進んだ
新潟運河の水質浄化水路



尼海の栄養JYUNKAN

内容:

日本は世界で6番目に長い海岸線を持つ海洋立国である。そのため、海運、漁業、レジャーなど様々に利用、開発が進み、環境が悪化し、未だ改善されていない環境も多い。特に都市域を背後に持つ閉鎖性水域では水質汚濁や生物多様性の劣化が激しく、その環境修復、保全の必要性は高い。また東日本大震災のようにわが国は甚大な津波災害を幾度も受けてきた歴史がある。南海トラフ地震・津波はそれを上回る被害が想定されており、被害軽減さに関する研究が強く望まれている。

そこで、本研究室では、環境保全と防災といった“海の自然”への社会の望ましいあり方とその形成を支援する技術に関する研究を行っている。例えば、大阪湾湾奥にある尼崎港と運河の環境を改善するための技術や社会協働の取り組みに関する研究、アミノ酸混和コンクリートの環境機能、希少海浜昆虫ルイスハンミョウのミチゲーション、事前復興まちづくり計画、歴史地震研究、日本的自然観に基づく環境学習や防災学習プログラムの開発などの研究を行っている。

分野:環境政策・防災

専門:環境工学・津波防災

E-mail: kozuki@tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7335

Fax: 088-656-7335

